

若者が賑わいを生み出す居場所づくり（中間報告・概要版）

令和5年度鹿角市政策研究所

はじめに

- ・若者の転出拡大と転入の減少による、地域活力の減退が大きな問題。
- ・市内の交流拠点の事例から課題を整理し、若者の居場所づくりに資する施策を提言。

1. 市内での若者の居場所と行動態様

- ・豊かなコミュニティを形成するのに必要な要素としてサードプレイスが提唱され、8つの特徴（中立、平等、会話、利便性、常連、地味、遊び心、共有）がある。
- ・サードプレイスはマイプレイス型、目的交流型、社交的交流型の3つに区分される。
- ・高校生・大学生が行った交流の場の調査では、市内で考えられる居場所として、公共施設、運動施設、公園、事務所（コワーキングスペース）、飲食店などが挙げられている。
- ・高校生の通学手段は自家用車以外が161人・47.2%、17時までに下校するが164人・48.0%。
→放課後の居場所づくりから、地域活性化を見込むことが可能。

2. 若者が望む居場所の要件と市内事例から見る課題

- ・高校生の居場所は学校とコモッセであり、それ以外では、学校近くで寄り道感覚、入りやすい雰囲気、安価、長居可能、会話・遊び・気分転換、Wi-Fi環境、の要件を求めている。
- ・居場所類型における現状と理想を比較した場合、社交的交流型サードプレイスとして成立している例が少ない（前述の調査では公園とkemakemaのみ）。
- ・課題を抱える施設の多くは、交流の場として活用の仕方が定着していない、あるいは施設自体の認知度が低いことが原因と考えられる。
→既存施設について、課題をクリアしていくことで居場所類型に合った施設利用を目指す。
- ・kemakemaの成功要因は、サードプレイスの8つの特徴から、人を介した居心地の良さにあると考えられ、交流の場の運営を考えるうえで重要。
- ・学生特有の条件と考えられるお洒落な雰囲気や席数の多さも取り込むべき。

中間報告でのまとめ

- ・今年度は若者にえられる居場所づくりについて、現状分析と課題抽出までを行った。

- ・最終報告では居場所類型ごとに目指す方向性を見出し、下記の内容を中心に賑わい創出に向けた取組みを提言していく。

最終報告に向けた取組内容

- ・コワーキングスペースの高校生利用を実験的に促し、効果を検証する。
- ・かづの商工会のアンケート結果について地元有識者等による研究会を立ち上げ検証し、実現可能な施設への支援策をまとめる。
- ・その他、成人向け、女性向けの居場所づくりについて検討する。